

道の駅「許田」リニューアルについて

沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課

はじめに

沖縄県名護市は、本島北部地域に位置し2000年に九州・沖縄サミットが開催された観光や交通の要衝となっている北部地域の中心的な都市となっています。また、名護市より北に位置する「やんばるの森」は奄美大島、徳之島、西表島とともに2021年にユネスコ世界自然遺産に登録され、東洋のガラパゴスともいわれるほど亜熱帯の貴重な動植物が生息する国内外からも注目されている地域です。

道の駅「許田」は平成6年に沖縄県で最初の道の駅として登録され、沖縄本島を縦断する国道58号の名護市に位置することで、沖縄自動車道北端の許田ICに近接する北部地域観光のゲートウェイとなっており、これまで多くの観光客が立ち寄り賑わいのある駅となっています。また、世界的な旅行クチコミサイト「トリップアドバイザー」の「旅好きが選ぶ!日本人に人気の道の駅ランキング2020」では1位となり、全国的にも人気度の高い道の駅として知られています。



【位置図】



【地域振興施設】



【リニューアル前の道の駅「許田」】

事業の経緯

沖縄本島北部地域には、県内有数のリゾート地や美ら海水族館のある国営沖縄記念公園をはじめ多くの観光施設があり、西海岸を南北に縦断する国道58号では観光客のレンタカー利用等で交通量が増加し、特に夏季の観光シーズンには激しい渋滞が発生しています。

そのため、国道58号道の駅「許田」周辺では、道の駅の出入りの際の信号制御による渋滞や道の駅駐車場に収まりきれない車両が本線まで渋滞することなどで後続車両の追突事故や渋滞が課題でした。

平成30年に渋滞緩和等を目的に、名護東道路（令和3年7月全線開通）の整備と連携した国道58号道の駅「許田」付近の道路改良事業と合わせて、道の駅「許田」の駐車場不足等の課題について検討を始まりました。

海側に駐車場を整備して上空通路を設けることで信号交差点を撤去し、本線の通過交通を信号待ちのないスムーズな状態にすることで渋滞緩和を図ります。また、駐車場拡張のために南側駐車場や道の駅から北方向の名護市内へのアクセスを確保するために、転回路の整備も計画しました。



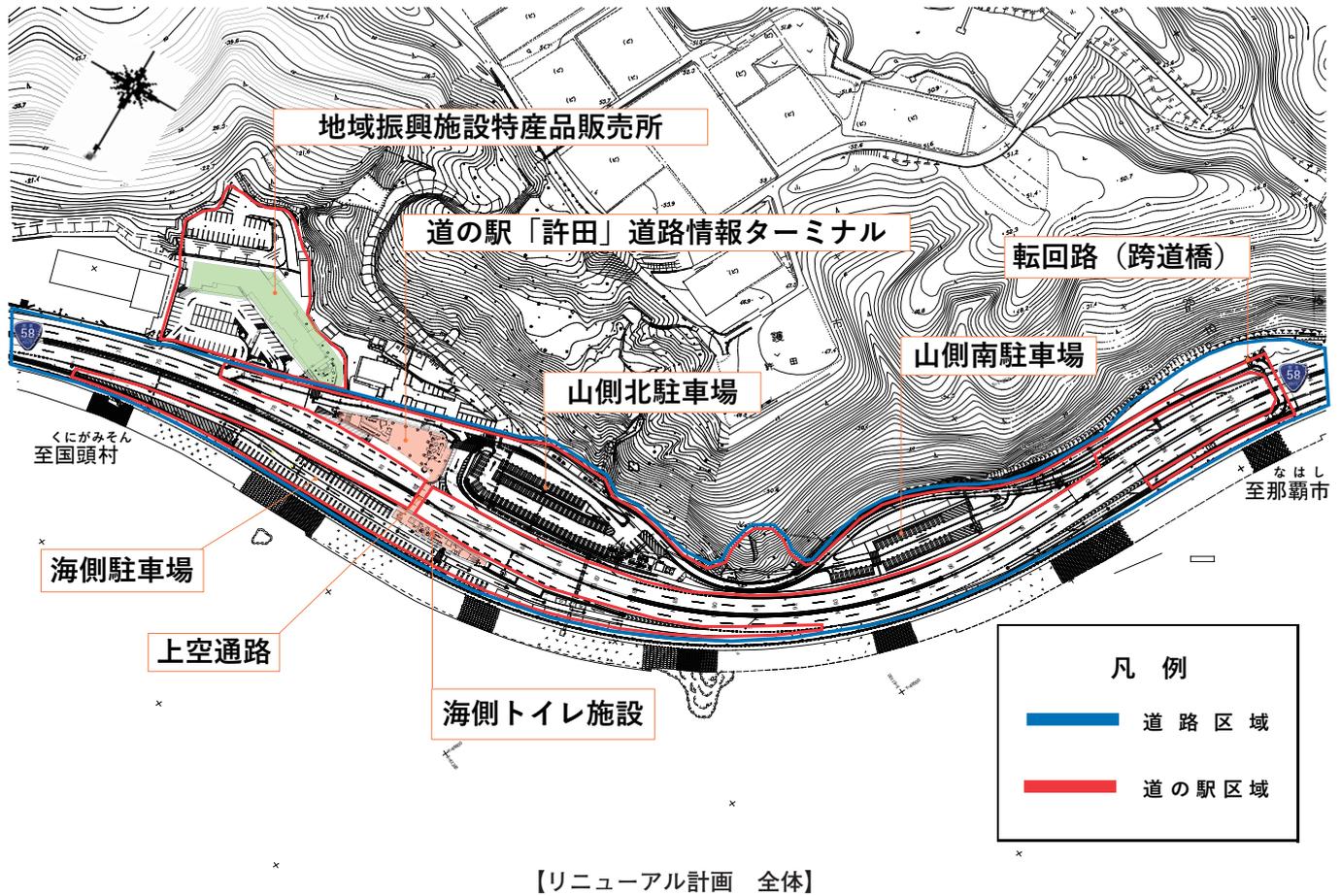
【道の駅「許田」周辺の渋滞状況①】



【名護方面の渋滞状況②】

リニューアルの整備内容

道の駅リニューアル計画では、国道58号の海側空間と南側の国道用地を活用して課題となっていた駐車台数を164台から約270台に大幅に拡張しました。（リニューアル前の約1.6倍）情報ターミナルには、屋上から名護湾に沈む夕日が望める展望テラスを設置し魅力あるビューポイントを創出しました。また、地域交流・連携の場となる多目的スペースを設置し、沖縄文化等を体験する場に活用するとともに、地域振興施設から情報ターミナルや駐車場などへの安全で快適な歩行空間も確保しています。



【リニューアル計画 全体】

リニューアル整備事業は、名護東道路の令和3年7月全線開通に合わせて情報ターミナル等の施設を供用しており、一部駐車場等を除き既に利用されています。整備された各施設等の状況は以下のとおりです。

○新設された海側、山側南駐車場



【本線道路改良 (情報ターミナル付近)・海側駐車場 (新設)】



【山側南駐車場 (新設)】

○情報ターミナル施設

1階にトイレと多目的スペース、2階に道路情報コーナー、休憩施設を設けており、上空通路で海側駐車場とつながっています。



【情報ターミナル外観】



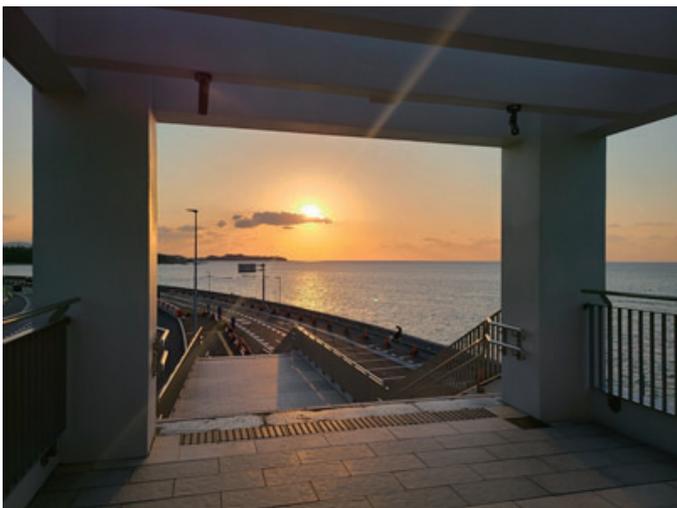
【2階 道路情報コーナー、休憩施設】



【2階 海側への上空通路】



【屋上 展望テラス】



【海側展望テラスから夕日の眺望】



【多目的スペースでの沖縄文化体験（イメージ）】

終わりに

道の駅「許田」のリニューアル整備によって、国道58号の渋滞の緩和、道の駅の駐車場の拡充による利便性の向上、新設された情報ターミナルでのインバウンドなどの観光案内や道路情報などの様々な情報提供が可能となりました。また、トイレ機能向上等による快適な利用環境を整備し北部地域の新たなスポットとして、これまで以上に北部地域の観光周遊の玄関口としてのサービス向上が期待されます。

残念なことにここ数年は沖縄の入域観光客は、新型コロナウイルスの感染拡大によって大幅に減少しており、多くの観光客が訪れていた道の駅「許田」の地域振興施設も来客される方は減少しています。コロナが落ち着き、沖縄に来られる機会があれば、リニューアルされた道の駅「許田」にお立ち寄りいただき、北部地域の魅力を存分に味わっていただけたらと思います。